

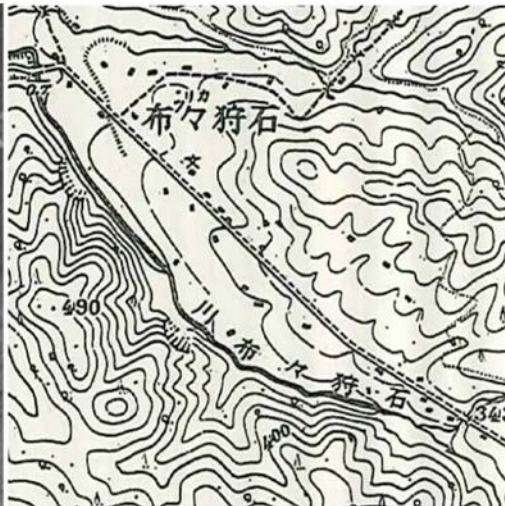
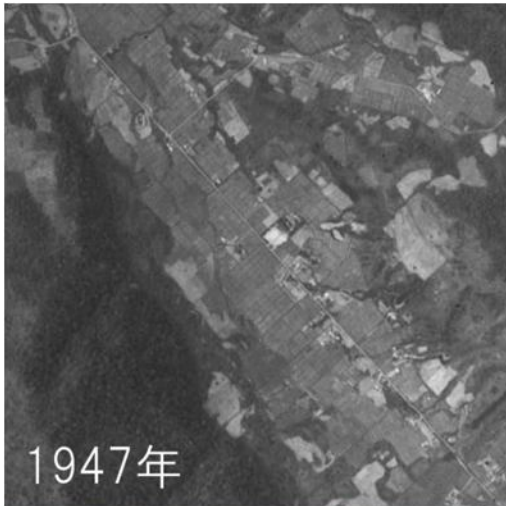
「アイヌ語地名を考える(3)」～石狩々布の変遷～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

探し求めていたアイヌ語の地名「石狩々布(いしかりかりっぶ)」は、地図上でやっと見つかったものの、現在は廃村になってしまっていた。この地域の歴史的な資料は、非常に少なく、過去を知る手だてはほとんどない。私は、過去の地形図と航空写真(国土地理院提供)で、この集落の変遷を追ってみた。(2ページ目拡大図)

①1947年(昭和22年) 戦後間もない頃である。集落の名称も、川の名も「石狩々布川」となっている。戦前～戦後にかけて、このあたりには徳星鉱山、愛別鉱山、山女の沢鉱床などの鉱山が栄えていた。主として水銀

鉱石を産出していただ。学校の記号もある。この学校の前身は、1908年(明治41年)開設の「石狩々布教育所」である。「愛別町史」より少なくとも、今から百年以上前から、この地域には人が住み、教育も行われていたことがわかった。



②1974年(昭和49年)

集落の名称が「旭山」に変更になっている。当時北海道では、アイヌ語の難読地名を、平易な地名に変更した例が多い。小学校の名称も、「旭山小学校」に変更になっている。川の名も「石狩々布川」のまま残っている。周囲は豊かな農村風景が広がり、酪農が盛んだったという。



③2001年(平成13年)

集落が丸ごと消えている。小学校も消え、地名そのものも地図上から消滅している。川の名も「狩布川」となったが、これが唯一の名残である。航空写真を見ても、かつての牧草地や畑は、開墾前の自然林に戻りつつあることがわかる。(つづく)

